

～ 正しい在宅医療の文化を広めることを目指して ～

2025年4月1日よりいしが在宅ケアクリニック鈴鹿の院長を拝命し、“鈴鹿市で正しい在宅医療の文化を広める!!”を目標に、チームスタッフと力を合わせて、いしが在宅ケアクリニック鈴鹿のさらなる発展に取り組んでいくこととなりました。在宅医療とは、病や障がいを持つ人の生き方を尊重し、その人らしい暮らしと人生を継続することを支援する医療です。対象となる人を年齢や病気によって分け隔てをせず、かかりつけ医として、患者さまはもちろん、ご家族や介護者の方々の伴走者として、包括的、継続的に支援します。



本院のある四日市市では“病院死”の割合は50%台まで低下しておりますが、鈴鹿市では“病院死”の割合はいまだ70%程度というのが現状です。鈴鹿市で正しい在宅医療の文化を広めることで、鈴鹿市がご本人やご家族の望む暮らしと最期が迎えられる地域となれるようチームスタッフとともに尽力して参ります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

いしが在宅ケアクリニック鈴鹿 院長 大竹 耕平



医療法人 SIRIUS

【発行・編集】 いしが在宅ケアクリニック

■ 四日市

〒512-8048 三重県四日市市山城町749番地37
TEL(059)336-2404 FAX(059)336-2405

■ 鈴鹿

〒513-0014 三重県鈴鹿市高岡町644番地2
TEL(059)389-7707 FAX(059)389-7708



いしが在宅

検索

デザイン・制作 あどプランニング



ご挨拶

この度、【日本在宅ホスピス協会全国大会in四日市】を開催できますことを大変嬉しく思います。四日市では多職種連携と地域の支え合いのもと、看取り文化を育んできました。この学びを地域住民の皆さまや全国で在宅医療に取り組んでおられる皆さまと共有し、在宅ホスピスのさらなる発展につなげたいと願っております。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

新時代の看取り文化の構築

少子高齢化が進む地方でのあきらめない四日市モデルを全国へ

《 大会長メッセージ 》



日本が超高齢多死社会に突入する中で、在宅医療や在宅ホスピスの役割はこれまで以上に重要性を増しています。この度、「新時代の看取り文化の構築」をテーマに日本在宅ホスピス協会全国大会を開催する運びとなりました。

50年前までは社会背景もあり、「在宅死」は特別なものではなく、普通で当たり前のものでした。それから時代は流れ、医療が進歩してからは病院に入院して、病院で亡くなるという病院死が増えていきました。つまり、「病院死」が日本の文化となっていました。

近年は救急医療を破綻させないための「国の政策」としての推進もあり在宅医療が発展してきました。そして、在宅医療を実施する医療機関が増え、看取りの選択肢「在宅死」が大幅に増えたにも関わらず、「病院死」は相変わらず7割を超え、まだまだご本人が望まない「病院死」が数多くあります。そして、救急医療が成り立たないという問題もそのままとなっており、いよいよ待ったなしの時がきています。

この問題は「看取りは病院」のままであるという日本人の意識の変革ができていないからだと思われます。「在宅死」も選ぶことができ、選択肢が広がっていることに気づいていないのです。この解決こそが私達の大きな使命であると考え、在宅医療に真摯に取り組んで参りました。望む人はすべて、在宅看取りができるように願っています。

今回の大会では、医療介護に関わる専門職だけでなく、地域社会、地域市民それぞれの立場から「新時代の看取りの文化の構築」を考え、「意識の変革をどうすればできるのか」という課題を共有し、具体的な戦略を議論する場にしたいと考えています。

この大会を通じて私たちがこの分野でリーダーシップを発揮し、未来に向けて持続可能な新たな価値観を社会に提案して参りましょう。

大会長 いしが在宅ケアクリニック 石賀 丈士